

年間
特集

東日本大震災から10年を経て、自然災害科学は何を学び、防災・減災はどう変わったか？～大災害を繰り返さないために～

編集担当 佐山 敬洋・澁谷 拓郎・米山 望・三村 衛・中野 元太・今村 文彦

2011年3月の東日本大震災発生から今年で10年を迎えました。巨大地震、巨大津波、原発事故の複合災害がもたらした甚大な被害の影響は、東北地方を中心に長期間にわたり現在も継続しています。当時の科学技術で貢献できた部分もありましたが、多くの限界や問題・課題も指摘されました。被災地の復旧・復興を前進させ、低頻度巨大災害に対しても甚大な被害を繰り返さないようにするために、この10年間を検証・総括して、今後の進むべき方向性を社会全体として考える必要があります。当学会の学会員が対象とする様々な研究分野では、東日本大震災を対象に取り組んだ調査研究において、様々な新しい考え方や解析手法が提案されてきました。また、この震災が突きつけた課題は、それぞれの分野の学理をいかに統合して、防災・減災のための智慧を得て、いかに安全で安心できる社会構築に貢献できるか、ということでした。この10年で進展してきたことを総括して、残されている課題を明確にする節目の時であると考えます。また、南海トラフ地震や首都直下地震

など、巨大地震の発生が避けられない我が国において、東日本で経験したような大災害を繰り返さないという強い思いを学会員の皆様と共有できれば幸いです。得た知見や教訓を国内外に発信し、仙台防災枠組などの国際的な防災指針にコミットしながら、グローバル社会へも貢献できればと考えます。

今回から始まる特集記事は4回の連載を予定しています(表1)。それぞれ巨大地震、巨大津波、複合災害、レジリエント社会の4つの切り口で、東日本大震災から得た教訓を総括して、今何をすべきかを浮き彫りにしていきたいと思います。各回2名(もしくは3名)のそれぞれの分野をリードしてきた著名な研究者に執筆いただき、1名は東日本大震災の振り返りを中心に、もう1名には南海トラフ等を意識した今後の対策を中心に取りまとめていただきます。東日本大震災の実態と、地震や津波に関する防災・減災の動向を知るよい機会になると思いますので、ぜひご一読くださいますよう、お願い申し上げます。

表1 年間特集のテーマと執筆者

テーマ	巻・号	発行年・月	執筆者
巨大地震	Vol. 40, No. 1	2021年5月	松澤 暢, 金田義行
巨大津波	Vol. 40, No. 2	2021年8月	今村文彦, 高橋智幸
複合災害	Vol. 40, No. 3	2021年11月	安田 進, 清野純史
レジリエント社会	Vol. 40, No. 4	2022年2月	矢守克也, 牧 紀男, 佐藤翔輔